

遠くて近い国・ブラジル

学校所在府県：京都府

学校名：京都府立南丹高等学校

名前：比嘉 竜馬（地歴・公民）

実践教科：地理A

指導時数：8時間

対象学年：高校1年生（2クラス）

対象人数：64人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

ブラジルへ行く準備段階から、開発教育についてのレクチャー、具体的な授業方法、現地ブラジルの状況など丁寧な研修を実施していただき、知的好奇心を刺激され続けたこの1年の教師海外研修だった。また他府県、他校種の先生方と交流する機会も、教師海外研修ならではの機会であり、同行したメンバーには多くの刺激をもらい、様々なものの見方があることを教えてもらった。

現地を見ることの最大の効用は教師自身が見てきたことを、説得力を持って生徒に伝えられることである。今回、「サンパウロの交番」「チエテ川」や「アグロフォレストリー農場」などの現場を実際に見たことで、「国際協力」「グローバル化」という教科書上の言葉が「生きた言葉」となって生徒に伝えられた実感がある。改めて「自分の足を使って学ぶことの大切さ」を再認識した。また多くの学校を訪問させてもらうことで「教育」の大切さを実感した。

「日系人」のことを深めたくて今回の研修に参加したが、多くの日系人の方にお会いしたことで、その並大抵ではない苦労、日本に対する熱い思い、人の生き様に触れることができた。自分にとっても「日本」とは？「日本人」とは何か？を考える機会となった。

研修全体を通して、「情熱」というエネルギーは国境に関係なく、多くの人を動かす原動力になると思った。特に教育分野における関係者の話は自分自身を相対化する良い機会となった。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

毎年、「地理A」の授業で「海外で行きたい国はどこですか？」という問いかけを行うが「行きたくない」「興味がない」という回答をする生徒も増えてきている。そのような状況を踏まえ、ブラジル授業では「遠くて近い国」をテーマにおき、「異文化を知ることの楽しさ」、「日本とブラジルのつながり」に気づいてもらうことに主眼をおいて授業を行った。また生徒が班で話し合う機会を作り、「何で？」と考える機会を数多く設けることを心がけた。

今回の授業でクローズアップしたポイントは2点ある。1点目は「ブラジルの日系移民」についてである。「日系移民」を取り上げた理由は、私の祖父の兄が移民としてブラジルに渡航しており、自分自身と関連づけることで生徒にも身近な問題として捉えてもらえるのではないかと考えたことが大きい。また外務省の「2013年対日世論アンケート」では、日本に親しみを感じるブラジル人が思いのほか多く、この点とリンクさせて授業展開ができないかとも考えた。具体的には「ブラジルの日系人社会がどのように形成されたのか？」「ブラジルに渡航した背景は何なのか？」「移民として居住した土地でどのような苦労があったのか？」「日系移民はブラジルにおいてどのような位置づけがなされているのか？」をポイントに授業を行った。

2点目は「熱帯林と私たち」である。私たちにとっては遠い存在でしかない「熱帯林」が実は私たちの生活と深くつながり、「豊かすぎる私たちの生活」の現実に気づかせるには熱帯林は格好の教材だった。「自分が生きていくのに必要だと思うモノ」のワークショップを導入し、写真やモノランゲージなどの教材を使用し、授業を展開した。またブラジルでの環境に対する取り組みを知ることで、熱帯林破壊の現実にも目を向けさせ、「自分には何ができるのか」を考える授業展開を心がけた。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2 時限目 「ブラジル」って どんな国？ *ブラジルに関する基礎知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ●アイスブレイキングとしてブラジルビンゴゲームを行い、ブラジルへの関心を広げる。 ●パワーポイントで授業を展開し、生徒は授業プリントに必要事項を記入する。 ●フォトランゲージを行い、ブラジルの多様性、日本との文化の違いを知る。 ●ブラジルに触れることを目的にモノランゲージを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント① ●動画 ●世界地図 ●ピラルクーの鱗・ピラニアの剥製・フードゥーなど ●フォトランゲージ ●教科書・資料集・地図帳・教材プリント[資料1]
3・4 時限目 「日系人社会」から 見えてきたこと・ 考えたこと *日系移民の歴史を知り、「日本」を相対化する視点を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ●外務省「ブラジルにおける対日世論調査」結果からブラジル人がなぜ日本に親しみを感じるのかその背景を考える。 ●ブラジリア学園の高校生インタビューから日本に対するイメージを紹介する。 ●チーム対抗のクイズ形式で日系人の歩んだ歴史について知り、日系人の生き方について学ぶ。 ●クイズ「日本人が持ち込んだもの」を行う。 ●「日本の中のブラジル」を知ること、これからの日本社会のあり方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント② ●世界地図 ●日本のマンガ ●家系図・写真 ●アゴゴ ●教科書・資料集・地図帳・教材プリント[資料2]
5・6 時限目 「熱帯林」と 私たちの生活 *熱帯林と自分の生活のつながりについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークショップ「自分が生きていく上で必要だと思うモノ5つに○をつけてみよう!」を行い、熱帯林と自分の生活の結びつきに気付かせる。 ●モノランゲージを行い、自分の生活と熱帯林の関係について深める。 ●「グローバル化」とは何かを学習する。 ●熱帯林破壊の現状を知り、自分のできること、「持続可能な社会」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント③ ●動画 ●世界地図 ●コーヒー豆・カカオ豆・アサイー・こしょう・meiji チョコレート ●教科書・資料集・地図帳・教材プリント[資料3]
7・8 時限目 ブラジルの光と影 *ブラジルの抱える課題について知り、日本の国際協力について学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の500人アンケートをもとに、ブラジルに対するイメージを共有する。 ●W杯開催で沸くブラジルの光の部分、影の部分について目を向ける。 ●日本の国際協力の現状について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント④ ●動画 ●生徒500人アンケート ●ビデオ「ファベラ」&「格差反対アート」 ●教科書・資料集・地図帳・教材プリント[資料4]

3. 授業の詳細

1・2時限目：「ブラジル」ってどんな国？

ねらい…ブラジルに関する基礎知識を学び、異文化に触れることの楽しさを実感する。

◆内容◆

- ① チーム対抗「ブラジル・ビンゴゲーム」を行い、ブラジル授業への導入とする。
- ② パワーポイントを使用し、ブラジルの歴史・自然・民族構成などの基礎知識について確認する。
- ③ フォトランゲージ（4枚の写真）を行い、ブラジルの多様性に気づかせ、日本との文化の違いについて考えさせる。
- ④ モノランゲージ（ピラニア剥製・ピラルクーのうろこ・フードゥー・マテ茶及び日本の太陽のマテ茶・ブラジル紙幣・パスポート）を行い、ブラジル文化の一端に触れる。



フォトランゲージのうちの1枚
(ブラジルの高校生)

生徒の感想

- ① ブラジルの歴史をたどっていったら、人種構成がどうなっているのかが分かった。
- ② ブラジルは黒人が多いと思っていたけど白人が一番多いということを知って驚いた。
- ③ ブラジルの国民の多様性はすごいと思ったが、昔、ポルトガル人が現地の人間を家畜同然に扱ったために色々な人種がいると考えると悲しいと思った。
- ④ 治安の悪さは心配やけど食べ物や市場・自然の雄大さがホントに分かった。なぜ移民の人が多いかもわかった。つらい歴史があるのも分かった。

◆所感◆ ピラルクーの鱗やピラニアなどのアマゾングッズは好評でアマゾン川に是非行ってみたいという生徒が多くおり、実物を見せることの説得力を感じた。「ブラジルには黒人が多い」ということが「思い込み」であることに気づかせることができた。現在を知るためには、歴史を学ぶことが大切であることを確認できた。

3・4時限目：「日系人社会」から見えてきたこと・考えたこと

ねらい…日系人を通して「遠くて近い国・ブラジル」の意味について考える。

◆内容◆

- ① ブラジルにある日本のモノ（キティちゃん・ヤクルト・「進撃の巨人」の漫画など）を紹介する。
- ② 授業者のファミリーヒストリーを導入として、ブラジル日系移民への関心を持たせる。
- ③ 「日系移民に関するクイズ」及び「日本人が持ち込んだモノクイズ」を行うことで日系人についての知識・理解を深め、なぜ日本に対して親しみをを感じるのかを考えさせる。
- ④ 「日本に居住する日系ブラジル人」から日本の未来の姿について考える。

生徒の感想

- ① 一番遠くて、かかわりのない国だと思っていたけど、ブラジルと日本には色んな歴史があり、ブラジルに親近感がわいた、移民の時代があったから今の日本とブラジルがあると思った。ブラジルの見方が変わった。
- ② 日本人がブラジルに渡った時にあれほどの苦労をしたのだと知って大変だなと思った。そこから「ブラジルで生きる」と決めて「日本人は信頼できる」というところまで持っていたのがすごいことだと思った。
- ③ ブラジル人が（日本に）親しみを覚えるのは、日本の文化を近くで見たり、感じたりしているからだと思う。ブラジルに、日本人みみたいな名前の人が出て、びっくりした。またブラジルの野菜の話もびっくりした。
- ④ 遠いようで近いなと思った。日本との共通点がいくつもあった。昔、ブラジルに渡った人はとても苦労していたと分かった。
- ⑤ 色んな人がいておもしろい。こういうことを知ってブラジルに行ったら楽しいと思う。

◆所感◆ ブラジルでたくましく生きる日系人の存在を通して、彼らの活躍が現在の日本とブラジルの関係作りに大きく寄与していることを理解してくれた生徒がいた。「遠くて近い国」の意味に気付く生徒がおり、ブラジルに親近感を持つ生徒が増えたように思う。

5・6時限目：「熱帯林」と私たちの生活

ねらい…熱帯林と私たちの結びつきを知り、「持続可能な社会」について考える。

◆内容◆

- ① ワークショップ「自分が生きていく上で必要だと思うモノ」を行い、「熱帯林と私たちの生活」がどのように結びついているのかを知る。
- ② 熱帯気候及び熱帯林の特徴についての知識・理解を深める。
- ③ 「これは何でしょう？クイズ」及びモノランゲージ（コーヒ豆・カカオ豆・アサイー・こしょう・日本で販売されているアグロフォレストリーチョコレート・日本で販売されているアサイーグッズ）を行い、身近なものが熱帯林と結びついていることを体感する。
- ④ 熱帯林の破壊の現状について知り、アグロフォレストリー農法を通じて「持続可能な開発」のあり方について考える。

生徒の感想

- ① 熱帯林とは、全く無縁やと思ってたけど、掘り返してみたら、色々なつながりがあることにビックリしたと同時に感動して、すごいと思った。ブラジルは日本の裏側で、一番遠い所なのに、日本にある色々なモノの原料の多くがブラジルから来たものが入っていてすごくつながりを感じることができて、とてもうれしかった。
- ② 「持続可能な社会」をどのように築くのか、今、生きている僕たちが考えないといけないことを実感した。熱帯林の減少を防ぐにはエビの養殖やパーム油、牧場化を止めるべきだけど、それで生計を立てている人もいると思うから、まずそこから考えていけたらいいと思う。
- ③ すごく「グローバル化」を感じられました。関係ないと思っていてもつながっているから考えていくようにしたいです。環境問題が難しいことだと改めて思いました。
- ④ アサイーとか、カカオ豆とか、なんとも思わずに普通に食べていたけど、作ってはる人のこととか、その国の分の食べる量とかのこととか少しでも考えたいと思った。

◆所感◆ 日本のコンビニで販売されているチョコレートとブラジルで生産されたカカオ豆の結びつきに感動した授業者の感動を生徒たちにも伝えることができた。熱帯林破壊の授業展開については多面的な視点で考える必要があり、環境問題について深めるためにも、今後の授業には更なる工夫の必要がある。

7・8時限目：ブラジルの光と影

ねらい…経済成長を遂げるブラジル、その裏側にある格差・貧困問題について考える。

◆内容◆

- ① ワークショップ「ブラジル世界ー」を通して、ブラジルの「すごい一面」を知る。
- ② 生徒 500 人アンケートを利用し、生徒のブラジルに対するイメージを共有する。
- ③ フォトランゲージを行い、ブラジルの抱える治安の悪さ、その背景にある貧困問題、格差問題に目を向けさせる。
- ④ 日本の国際協力の現状について知る。

生徒の感想

- ① 治安が悪いのは自分が考えていたのとは違った。ブラジルにはいいところもあるけど悪いところもあった。いつかはブラジルに行きたいです。この授業でブラジルのイメージが変わった。
- ② ブラジルは楽しいことばかりじゃなくて、裏では苦しんでいる人がいることが分かった。日本では、いい所とか、楽しい所とかそんな所しかTVで取り上げへんけど自分がそのTVを見てるとき、その影では苦しんでいる人がいるってことを考えようと思ったし、日本でも同じことが起こっている現実について改めて考えようと思った。
- ③ やっぱりブラジルは楽しくて、にぎやかな国だなと思った。サッカーではみんな楽しんで応援しているし1回私も混ぜてみたいぐらい。でもその裏で「貧困」という問題があるんだなと思った。きちんとした教育が受けられていないとか、なんかすごく悲しく思った。日本と同じでブラジルにもいいところや悪いところがあるんだなと思った。
- ④ サッカー選手の多くはファベラ出身という事に驚いた。教育に力を入れたら貧困が解消されると言っていたから教育は大切なのだと思った。その自分分も勉強をちゃんとやらないと！と思った。



ブラジル世界ー

◆所感◆ ワールドカップ開催に合わせて「ブラジル」を取り上げるテレビ番組が多く、「格差」や「貧困」をテーマにした番組は授業でも大変役に立った。「サッカー」というキーワードからブラジルの抱える課題に焦点を当てることができたが、「ブラジル＝サッカー」という固定観念を打ち破るまでにはいかなかった。ブラジリア学園の生徒が「サッカーは芸術的なスポーツだから好きだ。」と答えていたことが印象的であり、「サッカー」をテーマにした新たな授業の可能性があるとされる。

4. 成果

ブラジルの授業を通して生徒たちは「知らないことを知る楽しさ」を感じてくれたように思う。感想でもブラジルに対するイメージが変わったと答えていた生徒が多くおり、こちらが考えた以上にブラジルに関心を持ってくれたのではないと思う。授業では「なぜ？」という問いを投げかけることで、生徒たちが考える時間を作ることを心がけたが、ブラジルを通して見えてくる「日本の現実」についても考えようとする生徒が出てきた。教師自らが現地で体験したことを教材化して生徒に伝えることは、貴重な経験であると再認識した。開発教育の手法は教科だけでなく、様々な場面に応用することができることを発見した。総合学科を設置している本校においても有効な手法であると感じた。今後も深めていきたいと考えている。

5. 課題

「ブラジル」を通して「日本の現実」について考えさせることを心がけたが、限られた時間の中で、十分に深められずに終わってしまったことは反省材料である。特に「ブラジルを通して見えてくる日本」については「貧困」「格差」というテーマを考えさせるための工夫が十分ではなかった。また抽象的な概念を考えさせるのに開発教育の手法は非常に有効であるが、自分自身が十分に消化しきれていないため、今後も更なる研修が必要であることを痛感した。これからも生徒自身の世界が広がるような授業を創造していきたいと思う。

参考文献

「ブラジル学を学ぶ人のために」	富野幹雄 住田育法	世界思想社
「ブラジルを知るための56章」	アンジェロ・イシ	明石書店
「ブラジルカルチャー図鑑」	麻生雅人 山本綾子	スペースシャワーボックス
「ブラジル住んでみたらこんなとこでした」	岡山裕子	清流出版
「それでもコーヒーを楽しむための100の知恵」		朝日新聞出版
「ブラジルのことがマンガで3時間でわかる本」	吉野亨	明日香出版社
「リオのビーチから経済学」	山崎圭一	新日本出版社
「ブラジル 跳躍の軌跡」	堀坂浩太郎	岩波新書
「アマゾンで地球環境を考える」	西沢利栄	岩波ジュニア新書
「アマゾン 生態と開発」	西沢利栄 小池洋一	岩波新書
「ブラジルの流儀」	和田昌親	中公新書
「ブラジルの都市問題」	住田育法 萩原八郎 山崎圭一	春風社
「世界の食文化⑬ 「中南米」」		農文協
「ナショナルジオグラフィック 「ブラジル」」		ほるぷ出版
「ブラジルのごはん」		農文協
「サッカー歴史物語」		白夜書房
「ワールドカップで世界が分かる」		PHP
「オーバー」	開高 健	集英社文庫
「ワイルド・ソウル」	垣根涼介	新潮文庫
「旅の指さし会話帳 ブラジル」	猪木亜弥子ファニー	情報センター出版局
「地球の歩き方 ブラジル ベネズエラ 2014～15」		ダイヤモンド社
「目で見るブラジル日本移民の百年」		ブラジル日本移民資料館
「エルクラノはなぜ殺されたのか」	西野瑠美子	明石書店

参考映像及び使用ビデオ

「ブラジルの大自然」	ちちんぷいぷい	2014. 7. 11 放送
「ブラジルのファベール」	ちちんぷいぷい	2014. 7. 9 放送
「ワールドカップのCM」		2014. 7. 14 放送
「ブラジルW杯で格差反対アート」	国際報道 2014	2014. 7. 8 放送
「ブラジル人・日本応援の理由」	関西情報ネットten	2014. 7. 8 放送
「ブラジル」	世界行ってみたらホントはこんなトコだった	2014. 5. 28 放送
「ワールドカップの陰で」	サンデーモーニング	2014. 6. 8 放送
「遠い祖国～ブラジル日系人抗争の真実～」(前・後編)		2014. 8. 15, 16 放送

